



20世紀前半の日本関連女性英文学・旅行記研究

高等教育研究・支援センター

雲島 知恵

専任講師 KUMOJIMA Tomoe

博士(英文学)(オックスフォード大学)

■研究キーワード 旅行記 /ジェンダー /ポストコロニアリズム /トランサンショナル・フェミニズム /デジタル・ヒューマニティーズ

■主な所属学会 日本英文学会 / Modern Language Association (MLA) / Japanese Association for Digital Humanities (JADH)

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.2ed6518836c9b9eb520e17560c007669.html>



Nara Women's University



研究者総覧

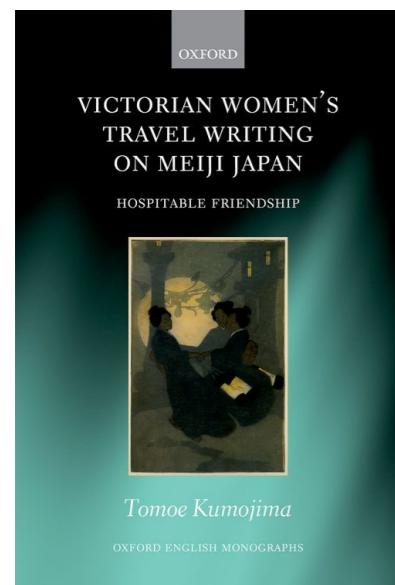
研究概要

異文化間の友愛と女性のコミュニティー

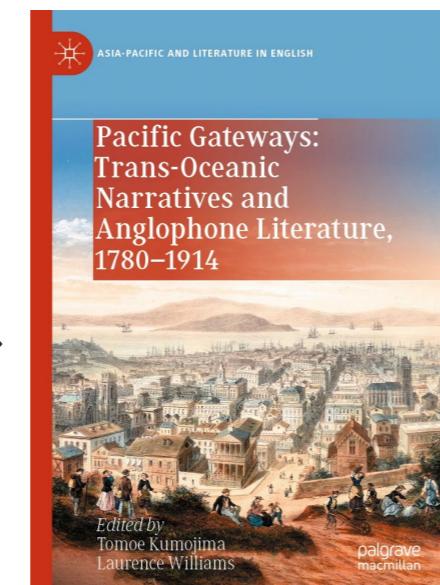
20世紀前半の国際都市東京において、文化・人種・宗教の差異を超えた女性達のコミュニティが形成され、政治的力・アクティビズムに繋がっていました。忘却された日英米女性達の友愛と連帯の記録を、新聞記事、雑誌、日記、手紙等の資料から丁寧に洗い出しています。

環太平洋地域における文化外交と文学の可能性

日露戦争、第一次世界大戦、そして第二次世界大戦・太平洋戦争と、日英米が同盟国、あるいは敵国として参戦した戦争の起きた半世紀に、女性達が出版した作品と出版の背景を丹念に紐解いて行くと、彼女達の目的が国家間の友好関係や同盟関係の強化、地政学的緊張状態の改善にあったことが見えてきます。自分達に与えられた政治的声の場として文学活動に賭けた女性達の想いと、文化外交史、国際主義活動への貢献を「審美的外交」として分析しています。



明治時代の日本を訪れたイザベラ・バードなどの英国人女性の旅行記と友愛の表象を研究した単著。

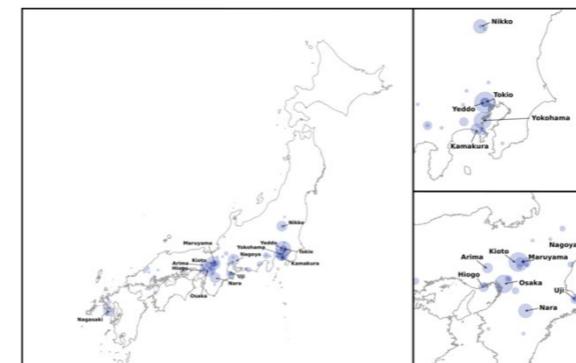


太平洋地域を描いた英文学に関する論文を集めた共編書。尾崎テオドラ英子に関する論文を掲載。

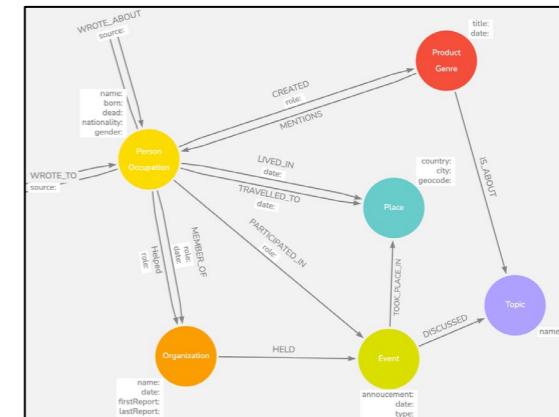
アピールポイント

英文学×フェミニズム×デジタルツール

デジタルヒューマニティーズ (DH) の研究手法を従来の精読と合わせて取り入れ作品の分析を行っています。具体的には、文学作品を定量的に分析するためのテキストアナリティクス、旅行記や小説の空間的理義を深めるためのマッピング、人物の繋がりを分析するためのソーシャルネットワーク分析、研究から明らかになる事実、情報を機械処理可能な形で構造化し、他者と共有することで更なる知識や新たな研究課題の創出に繋がる知識グラフやLinked Open Data (LOD) の構築に挑戦しています。文理融合による情報学関連分野における女性研究、女性研究者の増加を通じたフェミニストDHへの貢献を目指しています。



Eliza Ruhama Scidmoreの*Jinrikisha Days in Japan* (1891)内の地名のマッピング



The Tokyo Penwomen Clubに関する知識グラフのInstance Model

アーカイブ資料の活用

資料館等に眠った女性史関連資料の発掘も重要な研究活動です。英文学研究や歴史学研究で重要と見做されず研究の遅れてきた在日外国人女性や文化外交に貢献した女性の資料の発掘と整理、研究活用を行っています。